(元和1) 甲戌全7年度 会質を立名由京都小学校 学校評価信息

1 学校教育目標 1. 学校業用目標 「把述・文化を大切にし、も思かて、もちれたとくさいし、思想ッチの考点」 「おもチャネマも、一一一のおく持って中間に高き、自分の考えを持ち、学び、なから女変を能した。 で選挙に振るさる。一・自然並のはまにおって、選挙に振っ、知識・技能を認めるととも、おいかりのあるの・感覚するのを持つ。 認定してはそのそとなっ、単独には自然ので、表面の指手がり、本意を基心か。

① 児童も職員も安らして遭える、一人一人に思慮所のある学校づいその で、小選技術のようを集かし、全ての児童を全ての職員が協助して育てる。 で学など課題、地域社会が選携を深め、児童の健全な育成を図る。 毎 職員の児質申上を図る。

#**計 A(**十分連席している) **B**(おおむね連席している) **Q**(やや不十分である) **D**(不十分である)

2 本年度の重点目標 PRESENTION AND ADDRESS OF THE ADDRES

	984 (18) SEO/R								
3 🗎	① あらゆる場面で自然を持って自己表現できる頃かな字力を身につけた光度を育てる。								
92 NE	244.41	評価の戦点 (具体的評価項目)	異体的目標	a n	異体的方面		評価及びその理由	成果と課題	異体的な改善策・向上策
甲烷 雅 烷	○教員の責質向上	摸案为命用上	・命かの概要を参り返り、指導技能の内上に関める。 ・他内側女を急して管理機を向り入を機関にする。 ・他内側女を急して管理機を向り入を機関にする。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	款頭 研究主任 (吉浦)	・協りの何恵を記録により、自己信息評価と一つて扱り返ることで、自己問題を思 める。 ・ は内域でで会話を書でい、事業の目覚みのやで結ばし込い、授事力を異の ・ した。 ・ は、日本会と変ましたものです。 ・ 一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、		・労員が研究技能を行い、講師を指揮した研究会で、指導体 の名誉でいたで研究を紹介とよりであり 特別と一つでは、20一つでは、関係・指しての 情報用とを発しており組合が、 「本事」となっては、目的では、自分の 表示となるは、「他のでは、同時でもて文表に進み、自分の 表示を主ない。「他のでは、自分の 表示を主ない。」	・労働員で選出や予算のをまりの再選定人業をを終 り、第一人を製工機をグリができると、参っている子が ころが、砂川にであるのユニイーテックでイン面質 ・コスピーデタイムのブレゼルタイムでは、いから受護器で 東京駅に登出したがの間での質で発生的には、「共生 にピーデタイムのブレゼルタイムでは、大力の登場で にピーデタイムでは、よりよいスピーデにするために、「共生 からポインを研究人などが整子位 された。	毎年度は、東北原金(200で度、東を今のに 時をからとかできた。東北原の、東北原の 江田が、後年では、日本原のどの実施的を なる際にしたいて、実施を参い方があから 河水が変からいて、実施を最上が研究を 他のでは、同様のであります。
	●学力の向上	僧に応じたきめ継かな技事の 支実	「月月毎ロテイレンジ(落金管等ドリル学習)」でを責知者以上を必ざ ま、 「本価値のパフォーマン入辞書でも新の茂豊の扇豊を向上とせる。	学力向上コー ディネーター (吉浦・中野)	・協議からムを有数に関係し、寄り扱い予算を付い、予算内容の定着を係る。 ・場面の金貨券を担ぐいても関こなら高度を出し、日本的に下面がいたを行う。 基化で、自まが学生を持ってもではいる。 ・場のではなればあっないでから無金の様をの手を行い、急ばになって。 ・場合が考えることが、日本的にしかする。人・シュ級をかましてもこまする。	0	のようななお出来ない。これでは、 ないのまでは、他の人では、他の人では、他の人では、 ないのまでからでは、一番人が大きないです。 他の人ではない。 れ、それたして、自然を、からいでは、 は、まれていくことを、発展することができ、 ないのようないでは、まないでは、 ないのまでは、 ないのまでは、 ないのないでは、	の一定を基金でいるできての表面に対していません。 のである。ません。一直ではいる。まやスト をしてまるが中心が、 のできた。これでは、一直できた。までよりないる。までスト までは、一直では、またのできたが、 をはない。 では、またのできたが、 など、 など、 など、 など、 など、 など、 など、 など	○ 京都市は最中を持って登録に取り組むした ができるような 影響のはしたのが確認に乗る 上表を行う。 つまれてはなるであった。できままが「気体 的では、17世間ののでは、現ままかが「気体 がしてよりできまった。」では、 だりの実にしついて、19年をまあれていくのまか よる。 あんり。 しまな様のパターサンス 影響については 行わ ない。 と、意思すくもちまましない。
教育活動		誘客活動の推進	・東京の100階以上(おすずめの本を含む) 読書屋を目指す。児童の 遺成第100%。 ・適番のフマンルを広げ、質の用土をめざす。	図書主任 図書館可書 (大野・錦川)	・毎週月間に接続き・読み掛り(ポランティア)を発表する。 ・多様もの前を(確認的になり)・表彰さする。 ・場合機能が・名楽器解析等を持ちて充分機の図書の見し近しができるようなと様分となり、 ・一学年に歩くだけ。おすずのの本)を終わた。読書の質の角上を深る。	^	・指揮である毎期100回以上の誘塞要を用意を負が埋成した。 か。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	事業に立て人気でするのま20年 注意大力等にないた。 コーナーと 製け着人ニールルを 増くてってらない 人力でこれののかまった。 者はてきた。 ではてもため、 ではなった。 ではなった。 も、まままは、他の物はケイででく他の分割のより使むよりのエ 表としたい。	・学用ごとのおやすの読書量を設定し、原 講真機を図る。 ・読み機はかりてなく他の分類の本も読む ような工夫が必要がある。
	●加工利法用教育の推進	電子集板やデジタル数料の 活用	・デジタル教育事等を利用した数料提示を行い、児童の興味関心や 増加を高める故事を実施する。 ・全学級で情報をラルの故事を実施する。	情報教育遊島 (大野)	- ACT付当用教育にはる職員可修を実施する。 - 機能モラルに係る研修会・講話を実施する。	٨	・電子基板の利地用が進み、技事実践することができた。また、学校で購入した4000世界形で、男童自身も思味的に学習に取り組むことができた。	・デジタル数料書・デジタルコンテンツや自作数料を効果 的に活用して見生の名談を含め、現状学のとことがで たが、現実技能に対して、電子裏数や300億分割を削けた。 用することができた。 ・保護者に対象を製む通信等でKCT利活用の状況を知ら せることができた。	・機能も今本について、表者思想 や享息信息を 表意して遺物や享集活動の時間に最少底し限 事していく必要がある。
	小学校体学年の学習環境の改善充実	基本的な生活習慣・学習習 僕の育成	・家庭学習の習慣をのために、家庭と連携して、生活・曾読点機を継 塞する。	位学年担任 (大野)	・商品・摂意に関知要素に、授事・呼びの余事でを商品で選集に、あらから場合 に「 <u>まっすで原本・はったり「はい、と変事・マッと数でものまま</u> についての評価を行 う。 「製造か一ドを取るに、毎日点様に、表現力の向上を図る。 ・ブレセンタイムなど様々な発表の場と受け、表現を呼れせる。	n	版の表・多りの表の意思の簡素でも成立ついて表面してそんが、十分 となったが、。 「他表示一大・裏面の表し、簡単の成果を見らんのに 意識テスト等を 表面した。 「プレゼンタイムに 対する言葉 ゴロが悪く、特別情報も見しかった。		毎日、児童自ら点検しながら、忠謀づけを 図る必要がある。
节定課題	〇幼保小中連携	中山間地域の近隣の保小中 との連携の推進	・近端の保小やそれぞれと3回以上の連携に関する活動を行う。 ・場合的な中容・処治社との関連を図り、郷土の良さを収えようとす ら思想を育てる。	信学年担任 (大野)	- 北部集用電付字を中心に支流接触を申3所は上行う。 - 北山中、正原中とを2所はこの数階階間接触を行う。 - 地大小電が小電が分割では20世間の位置的な行字を取り上げ近隣の学校に 向けてアビールする。	0	機能機能の発用を関いてきまれてはど、関係の機能を関にすることができた。 ができた。 べな知り、温度などの付金に整路を加して、交流を選ぶることができた。 た。 べる中の名を名をお客件整を支えか逆走がに燃作し、原本の負さすが一かずることができた。。	本部の下面との連出国際を「日本の戦をしてこれができた。」出 機能を高さらかも人下元 ロウを建ている中の戦をして、民産機 が選まった。 ・場外を整定がに向けて、電視的に取り組み、当年 日本記し会が でよりできた。本部さんだの意味が実まった。 ・上海線市面との交換で変する検討していきたい。	 ・保育体験や教諭間の情報交換等の時間 関係のための調整が必要である。
					② 規律正しい生活・全校到道を通して心身ともに充実した男	主金金丁	176.		
銀坂	神像項目	評価の競点 (具体的評価項目)	具体的目標	21.5	異体的方面		評価及びその理由	成果と課題	異体的な改善策・向上策
	●健康・体つで	全役刺逐の充実	・制道を通して自分の体力づいに関心をもたせ、進んで運動をする 物液を削てる。 ・制道を通しても領末しい物液を身に増けさせる。	刺連器 (角)	・財道ノートを利用して、自分の目標や確古について重り返らせ、運動に対する意 変を高のをでる。 ・当途の境で孔線正しい想度で逃ごせたことを貢賞する。	0	・加速メートや消費を集ませるを使みしながら、を消費の目標を要換さ せなから発展することができた。 ・「対策で学ぶ」ことがまたいが、本外ムの意味に思かてこと(特別を学 もの事業など)が十分できなかった。	・知道に当り組むことで、あいさつ 札番・基本的生活管理の集まを 扱るこ とができた。 ・ポジ放ての主集なことが認いなど、今後も見をつけながら生意していき ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	- 日の、別走ノートを 由版することにより、用変 の成長の「別走で学ぶ」ことの事場を考えさせい い。 ・ 今後とも基本的な生活習慣者成 のため、武造 集育を進めていそれい。
		望ましい会習情と食の自己 管理能力の育成	・耐食の内容・重要性について、宇年に応じて児童に考えさせ、実践 させる。 ・甲科論教を活用し、概念の責集活と食事マナーの習者に取り組む。 納食を経行食べる。90%以上、食事や・食液のマナーの定者を終 る。 ・単しい金食を工夫できる児童を育てる。	食育提布 (内村)	・宇宙活動や結束選問の取録を通して指導する。 ・宇宙和による結束機器を行う。専門が3字指針で予証した会食の仕方等、結束 開発を付用して必須並に広める。	0	・総資料には、金額貨で指導を行ないマナーを守った実の指導を行ない。 場を目的なから、 ・・他を認可には、粉皮に関する集金を行った。 ・・学校本要数論による朝食の大切さの技事を行った。(他・中 学者)	- 競技策を出せいいて、総会の推算も0を助ぎし自分の 食べきもも変を考えながら業をそそのことができている。 ・ はかし最終については、内容に固りがあるからあるの で享載と協力にながる。用意していく必要がると考える。 ・ 作物の最終つくびを通して、食の大切とを学んだ。	・動食時のマナーは継続して指導を行なっ ていきたい、また、動食の大切をについて 保健知識や不要整計の運動などを入れな が与環境を行なっていきたい。 ・動食を好き嫌いをせずに、自分に合った 適量を食べることができた。
数字形数	●心の教育	道徳歌育の祖進	・年1回日上、全学線であれるい道徳の技事公開を行う。	遊問期的(古典)	・永幸尊書・家族受を守めたした衛徳璞目で授業を実施し、よりよい生き方を保護 者と一緒に考えをせる。	0	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	の遺産のの下等人が機能を、可能性能等の特別を見って実施 することにより、自然の情報をある。可能は、20 可能機能をかう 14 のできた。 人 対策であったの意味をよると思いて、可能の選ができ く、実施でからならのできるような遺産機能が必要である。 (人 大阪では、20 の対象では、19 所の数できないできないできない。 (本本)、20 のでは、19 所の数できないできないできないできない。 とかできたが、より実施的できないでいるではないである。	O「心れあい 連市」の対象的に、母親をに守 部内部を連用したり、その対象で使用する実施 等を制制したサイト。 O連数をの対象機能を対象や母親をしかかり でで知らなる。
	●いじめの問題への対応	人種教育の充実	・項重ー人ひとりが大切にされる字句・字語をむぎす。 「いいたの」の理解。 ・全集員で取り組み、双重の人権意識を高める。	人種・阿和教育 提高(吉浦)	・用に、(京人権官をの実施・(中部に、(京、市部・教護市路・(ウ・)・ ・場下後・北ての人権では、場合の第2。 ・13万の北大権等の実施・アントに関係の実施・ ・13万の北大権等の実施・アントに関係の実施・ ・13万のない大権等の実施・ ・13万の北大権等の実施・ ・13万の北大権等の実施・ の実施・	0	○年の人を記念(信号でも集合からですの点が予めまま。(い のもの目的 はやイアップした 原名の基準することができた。 あたらいに大関 の指数をからこのできた。 またらいに大関 の指数をからこのできた。 のはおおけ、15年のは 日本 名乗金 きかったらの・12月の 人を当会 の実践しなから。	の事業を申集の中では長年に、元素の様々について開催に ・、元素機能を基本などができた。 では他のであることができた。 では他のであるとなった。 では他のであるとなった。 では他のであるとなった。 できることができた。 できることができた。 できることができた。 の表表した。これでは、最美術な機能をあるの表表をある。 できることができた。 の表表のとなった。 のまた。	○事業の利用では、表演の中でも「たん」「対けで 呼ば隔離のでいるいで、業工では実施を実施。 からを記されば、「新きを次回によったする。 からを言える。 ○本に「注、「変更が正明となって、面が振り「人概 無力」ときからたにより、人間について達く考え でする 概念とする。
	〇生党指導	きめ縁かな値別指導の克実	・点項の的第三人の第三法数の定着を殴る。「4つの第三を高んでで さる可能が100%。 ・選系的の行動域を力定者を殴り、気になる子どもに対して全額員で 実施する。 ・生産数の指数域を力定者を殴り、気になる子どもに対して全額員で 、生産数額の指数の度者を殴る。	生使抽得 提出 (中野)	「優いそう。最近が、一個がおからしまつ」の活動ができた児童をスタールー 人名文と世界にて出め、金数の様でも飲かする。 「最後事を、他有限認識等を参考方数で、気になる子どもに対して、金鵄具及遺類 現立し、全部の上で、大変変を特別を表現される。 「第四の全数様がのまし、文意変を特別を基準されると表現される。」		・場所の意味を中央性限を受ける。 でおり取りたかけた。 ・・本面を「いっますを」、 ・・本面を「いっますを」で、できごとに自己があるでも高ます。 もことで、言葉がけることができた。	○商品室の手頭ので日本的に、元堂の様子について前着に ・・、元成程数と重めらことができた。 の登画者 の確認のよの会会会のでできまるのが収扱人につい で回答。「個形となるか。 の意言をは、個形となるか。 のを有効のの音形では簡素が必要を含く、計画的に実施 することにより、元宝母節を認めることができた。	・福美国のADAT、福度をよの通常をいっせか 他と他の、元変理器のいっせかの 指者と共通実 地に関めていく必要がある。
					地域から信頼され、地域と連携した豊かな体験活動が充実した	と学校:		Ī	
保証	評価項目 ○学校經営方針	評価の戦点 (具体的評価項目) 本句度の重点目標の関加	具体的目標 - 磁路員・河里・保護者の開知率を9前以上とする。	报 集	異様的方面 ・電角を減、会話集会でに指する。 ・学校表り、中村世学的会・首大会社会のどで現地に、異様的取り組みを提供する。 ・物体学知の合わなーに関地を求る。	9	評価及びその理由 ・各会議事での説明を行うことができた。 ・各議者アンケート・開身アンケートの結婚からおおむ地質知 されていることが見える。	成果と課題 Oはび毎日のホームページの見管により、開発者が増 加するととしてきた間やかな情報提供が進んだ。 の毎月の保護者等で学校目標や近の様子のつい で話し合い、学校報告方針について理解していただいて いる。	異体的な改善業・向上業 ・被率の方の作業等への参加に課意がある。 ・取扱者が見ない。現実的等への違いや地域 作業・の参加なら無よに、現場・概要をある でいて、されに異称・機能を振っているかい。
经银轮	〇間かれた学校作り	関かれた学校作りの推進	・学様だより、学校だより、学校かームページ等による情報発信を拡大する。 大する。 ・集議者だけでなく、地域の方も含めた学校竹等を充実させる。	校長教育	・ 学校原刊は、保護者・山村哲学会の実際・地域を戸に至るする。 ・ 実施には、学療使いや学校でのそとも同様・が分から写真等・・ 構にさる。 ・ 「協会的に学療の物質・の物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		・学校使りは、これまでの都市方法を改めて自治会美に保験 するなどでもな原内をPに起発することができた。 ・他からか学習では、地域や山村哲学を超材とした素能がで きた。	○学校使りは地域の全世帯へ、学様使りは11月以降保 関金・実際・重観に支援的に応ち・認定し、学校での様 子を知らせるとながきた。 ○「加金的な学者の時間、7世地域や山村哲学について 学習に、現面を見かて収集団をといなり、「よらをと文 も思うで発表したりと成果を上げることができた。	・山原から扱いている 金田巻への「開発リ」の地 地に出かけての 参加な場合 (環境長年のポス・ サー 報り回り 3 ちかったはできたが、月度のいな い間に 他とを対象を欠等 へのアピールを 美 に工具していく必要がある。
特定課題	〇山村霊学の継続・免费	☆村堂学の継続・党展	・複雑・地域と協力に出村客学の複雑・地震ができる学校をのだっ。 で、	白刊館學 提名 (教徒·吉浦)	・山村哲学所の発表を認力して、山村哲学のできる学校としてのよえを工業して アベールでも、 ・地域に関すると、「地域では、地域では、 ・地域に対するのでは、 ・地域には、 ・ははは、 ・ははは、	*	・相乗事性に関別計画で参照しているとは、大きな問題等 はなく、無事に解析であまれる経費を ・相乗等が、長期等であまれる経費であっているとしている。 ・は知事から身を定めやマブドールであった。 ・付きるもの発展できるをヴィンルにが、東側・展別・実行 が表現・物は心器をいながら、これまで無事に呼吸ませた。 通名を企ぶてきた。	・ホームページへの報やから情報券信により、数年表の 哲学系の名前が載立ではまれた7944あった。業務実的 者業ますらむどまかなのは打容等を急遽することがで ささいため、 ・19年の作品が成成的で第2分に大ちの・地域の人の協 力にてはできないもの等か多い、児童主張すの効果は 扱いったが、そのでも、児童自分地域の人と触れ 食いのが必ずることができた。	運用が減少するの、開催していてはられませた。 を出ているが、人人のでき出していてはその。 までも、まり、最初を入れてない。この地域 かだないまかないものできょうない事をと、 ができまかないものできょうない事をと、 からまかないまないないからないできませた。 からまかないまないないからないできません。
	-								
**	食の重点 日本に合文れない 美国野祖県日								
領域 学校	計価項目 ○数員の責契向上	辞儀の戦点 (具体的評価項目)	具体的情報 商務員の服務関係の保持に対する名類を向上する。	en	具体的方面 - 選兵会議や連接をで、毎回整理機能について搭載を開きた。 現長の意識を完め、 ・ 選 になる。 会社に関係し、必ず管理集とが規模機をする。 ・ 選 に対し、会人に関係し、必ず管理集とが規模機をする。 ・ 日本別に事業・事件、事政の情報提供を行う。		評価及びその場合 ・報点会議・選絡会時に「報点の話い」を認知したが、適如文 等での基準等の認め合わせをしたがして最初競技体の条件製 物について様子といできた。 ・適加文については個別し、会要にのしての前・配布して具体 別に指摘することできた。	成果と課題 の日常的な会話においても現金あることに展現機体の 保持について経過に、原理的けずることができた。 の認定を等から関連を等からのは最近をおいいて発見に解放所を 域内がい、原接を実めることができた。	異体的な必要漢・向上架 一個市・港車・指揮について「これくもいは・・」と いき実施をルサータになってにおうこともあった。 世に直い音楽を作てるエチ指導していく必要が ある。
8	○北極管理 ・通評価項目、○は独自評価	総員の危機管理の意識向上 と危機管理体制の整備の克 美	危機管理でニュアルをもたに不審者使人を始めたする記算訓練で全 員が自分の投票を遂行する。	泰斯	・本駅の美容に応た危機管理マニンアルを作成する。 ・市が成立上の産業機能を行う。 ・運動機能の1所は不容易使及に対するものにする。	0	・危機管理マニュアルの一部(不審者吸入等に関わる不像)を な打した。 ・必要・火災逆間では、緊急地震速度を初乏した訓練を行うこ とができた。	○映内の地積管理マニュアルの返訂だけでなく、通学等 の点検を行った後の整備要求、スクールソーシの設置な ど児童の安全に係る活動ができた。	・ 株式アスの元素を施工のいては、必ず ・ もまいとの言えない。 中部の日本年を生活性に ・ 様々な事業を表だい。 日本の日本年を 中っていく必要がある。・